

## 授業と評価について

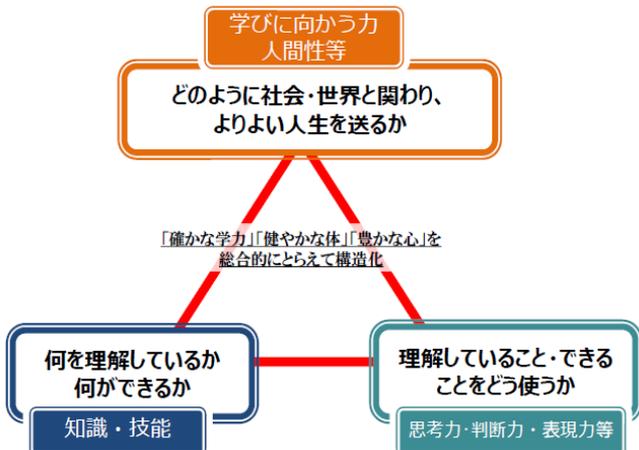
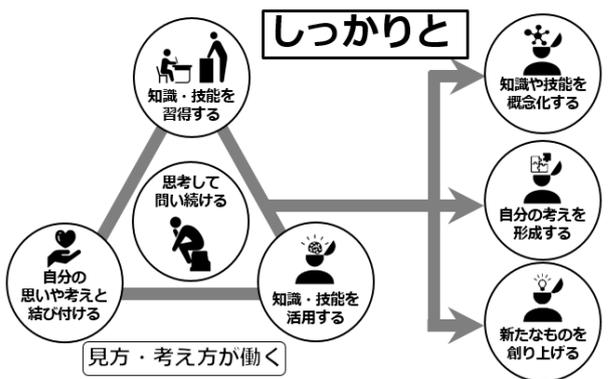
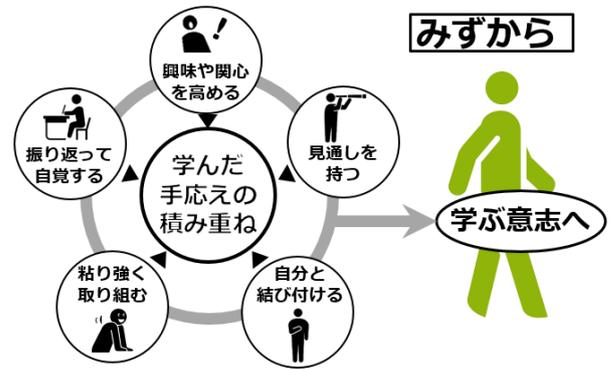
今年から、文部科学省（国）が定める授業の基準である学習指導要領が中学校においても4月より完全移行となります。先日配付された新しい教科書も昨年度までの教科書から一新したものに変わっています。

授業については、この数年間少しずつ変化してきましたが、キーワードは「主体的・対話的で深い学び」です。簡単なイメージ図でこれらを示すと右の図のようになります。

これらを言い換えると「自ら、ともに、しっかりと」勉強をするともいえます。こういった授業を目指しています。

こういった授業を通して生徒のみなさんに「しっかりと」身につけてほしいものを「3つの資質・能力」として整理されました。それは「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」です。

これらの3つの資質・能力の獲得を目指すので、授業を通して生徒のみなさんがこれらの3つの資質・能力が身につけているかを先生は評価します。その評価は、生徒のみなさんに授業の中で細かく返したり、通知表などでまとめて返したりします。



今回の通知表からは全ての教科で統一して、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点を示されました。そして、それぞれの観点を趣旨をもとに次のような考え方で評価するようにと記されています。

評価の観点	具体的な評価方法の考え方
知識・技能	ペーパーテストにおいて、事実的な知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題とのバランスに配慮するなどの工夫改善を図るとともに、例えば、児童生徒が文章による説明をしたり、各教科等の内容の特質に応じて、観察・実験をしたり、式やグラフで表現したりするなど実際に知識や技能を用いる場面を設けるなど、多様な方法を適切に取り入れていく。
思考・判断・表現	ペーパーテストのみならず、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作や表現等の多様な活動を取り入れたりと、それらを集めたポートフォリオを活用したりする。
主体的に学習に取り組む態度	ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察や、児童生徒による自己評価や相互評価等の状況を教師が評価を行う際に考慮する材料の一つとして用いる。

これらを受けて、本校ではそれぞれの観点に基づき授業改善をし、評価を行っていきます。各教科の評価については、「評価基準」「評価の方法」「評価する主な材料の具体」を、勝田中学校の「授業・評価の手引き～授業の受け方と評価の仕方～」に掲載していますのでご確認ください。

繰り返しになりますが、今年度より、授業で生徒のみなさんが身につけてほしいものが3つの資質・能力としてまとめられ、今までの通知表などで出していた評価と変わります。

この新しい評価、評定については、各教科の先生も、授業の中でできるだけ細かく、その都度説明したり、結果を伝えたりしていく予定にしています。新しい教科書をもとに、気分を一新し、ともに勉強を進めていきましょう。

この文書は、勝田中学校のホームページにも掲載します。